

築城にまつわる伝説

■ 石垣にかかわる悲しい伝説

羽坂重三郎は、常に仕事をするときは裸になって一生懸命働くことから「裸重三」と呼ばれ、丸亀城の石垣を完成させた功労者です。

殿様は「さすがに重三の築いた石垣だけあって完璧だ。これでは空飛ぶ鳥以外にこの城壁を乗り越えるものはあるまい。」とご満悦でした。

ところが、重三郎は「私に尺余りの鉄棒を下されば、容易に登ることができます。」と言って、鉄棒を使いすいすいと城壁を登ってしまいました。

殿様は、重三郎を生かしておけば来敵に通じた場合、恐ろしいことになると考え、城内の井戸の底を重三郎に探らせて、その隙に石を投じて殺してしまいました。その伝説の井戸が二の丸井戸です。

■ 丸亀城人柱伝説

シトシトと雨の降る夕暮れ、一人の豆腐売りが作業場付近で豆腐を売りつつ通行していました。これを待ち構えた人夫たちは、豆腐売りを捕らえ、用意した穴に投げ込み、お城の人柱として、生き埋めにしてしまったのです。以来雨の降る夜は築城の犠牲となった豆腐売りの怨霊がトーフトーフと泣き続けるのだとされています。

『丸亀城ものがたり』永田照雄より

住所	香川県丸亀市一番丁
電話番号	0877-24-8816（市文化観光課）
開館時間	《天守》 午前9時～午後4時30分（ただし入館は午後4時まで） 《大手一の門》 午前10時～午後4時
休館日	《天守》 12月25日～12月31日 《大手一の門》 雨天時 ※大手一の門を見学ご希望の際は、城内観光案内所（うちわ工房「竹」）に声をかけてください。
入場料	大人 200円 (天守閣のみ) 小人(小・中学生) 100円 団体(20人以上) 1人につき上記の金額の2割引の額
駐車場	丸亀城内資料館南側 50台(無料) 時間 午前9時～午後5時

石の城「丸亀城」



史跡丸亀城跡

(昭和28年国指定・史跡)

標高66mの亀山に築かれた平山城。別名亀山城とも呼ばれています。本丸・二の丸・三の丸・帯曲輪・山下曲輪があり、東西約540m・南北約460mの内堀内204、756㎡が史跡範囲です。「石の城」と形容されるその名のとおり、丸亀城は石垣の名城として全国的に有名です。

丸亀城の見どころ

大手二の門



江戸時代の初めに建てられた、丸亀城の表門で高麗門とも言われます。

大手とはお城の正面のことを指し、追手とも書きます。大手二の門は丸亀城の顔にふさわしく、石垣に使用されている石は大きく、ノミの跡も美しく仕上げられています。

見返り坂



傾斜が急で、時々立ち止まって振り返りたくなることから、いつしかそう呼ばれるようになりました。頭上に覆いかぶさる木々が、四季折々の美しさを覗かせ、心をなごませます。

石垣

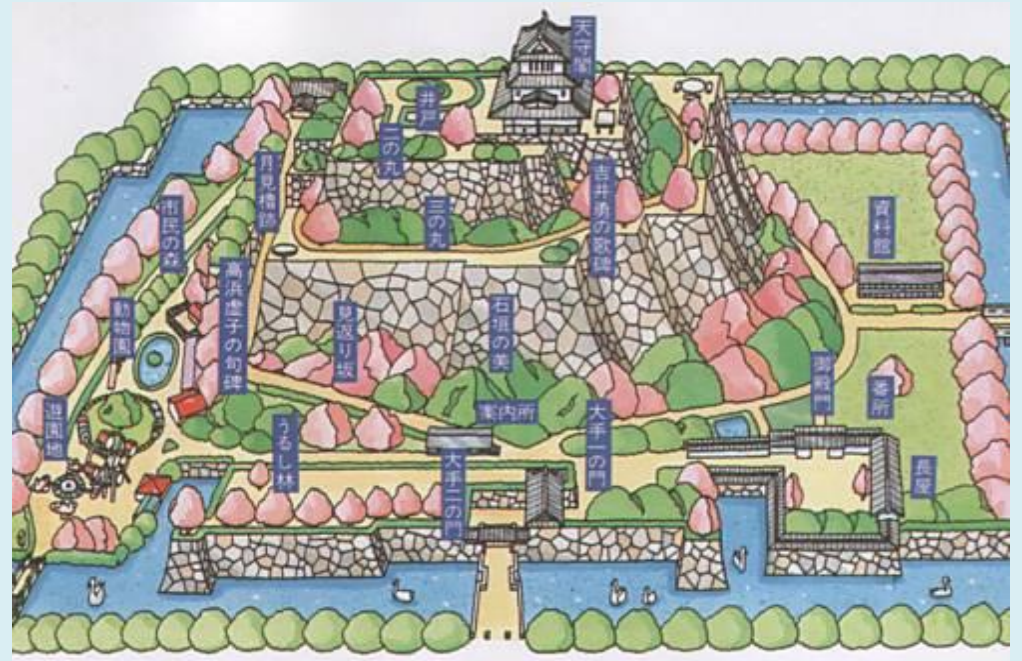


内堀から天守へ向け、4層に重ねられた丸亀城の石垣は、高さにして約60メートル、日本一の高さを誇ります。また、扇の勾配で知られる美しい曲線は、丸亀城の美を代表する石の芸術品としての風格を漂わせています。

高浜虚子の句碑



「稲むしろあり 飯の山あり 昔今」
65歳の高浜虚子は、丸亀城を訪れ、三の丸の高台からの眺めをこのように詠みました。俳人の目にとまった美しい風景が、城下に広がります。



年表

応任年間	1467	奈良氏が聖通寺城の支城として築城
慶長二年	1598	同七年にわたり生駒氏築城
元和元年	1615	一国一城令により廃城
寛永十七年	1640	生駒氏国除
寛永十九年	1642	同二十年、山崎家治が復旧築城
明歴三年	1657	山崎氏絶家
万治元年	1658	京極高和、丸亀藩主となる
万治三年	1660	天守閣が完成
寛文二年	1670	新たに北面に大手門を移す
明治二年	1869	京極朗徹、版籍を奉還する